

淡海公の追贈

藤原不比等はもともと「史」という名であり、比べ並ぶ者がいないという意味の「不比等」の名は、平安時代につけられた。

<http://blog.goo.ne.jp/hikonejou400/e/595edfc1bed4ebd5a012a7153edefb8e>



不比等という名は「等しく比べられる者がいない(不らず)程に優秀だった」という意味で平安時代に命名されています。

そんな不比等が和銅年間(708～715)に近江国太守を務めたという説があり、……。藤原不比等は近江での記憶が余程に大きかった為か？死後は“淡海公”との諡号が付けられます。淡海とは近江の事ですし愛荘町にある八幡神社には淡海公御墓と刻まれた不比等の墓が存在します。

不比等には四人の息子が居て、彼らは藤原四子政権という独裁に近い政治を行った時期がありました。そんな四兄弟の中で次男の房前も不比等と同じように近江国司として彦根の安清に住んでいた時期があったと言われています。彦根では不比等と房前が建立した寺社が形を変えて伝わっている例もあるそうです。古記の記すところでは彦根村(元町)には七堂伽藍大寺院として淡海公が建立された天台宗養花院が数々の滅びと再建を繰り返し臨済宗慈眼院(佐和町)と改名したのです。ここには不比等の娘の墓があります。慈眼院は井伊

直孝が藩主の時代に龍潭寺の末寺となり淡海公から伝わったとされる宝物は龍潭寺に納められたのだとか...

彦根の歴史を紐解くとよく目にする彦根山周辺にあった彦根寺や門甲寺は房前の建立と伝わっています。

その他にも、滋賀県内のあちらこちらにひっそりと佇む古い社の由来を調べるとこの二人に辿り着くことが多いそうですよ。

ウィキペディア

臣下に賜る諡としては、[右大臣](#)在任中に没した[藤原不比等](#)（文忠公・淡海公）が嚆矢であるが、後の世には[摂関](#)・[太政大臣](#)を務めて在俗のまま没した者に限って漢風諡号と国公が贈られ、[貞観](#)14年（[872年](#)）9月4日の[藤原良房](#)（忠仁公・美濃公）、[藤原忠平](#)（貞信公）をはじめ、[摂関期](#)に9例を数えた。

氏名

漢風諡号

国公（国名、国の遠近・等級）

[藤原不比等](#)

文忠公

淡海公（[近江国](#)、近国・大国）

[藤原良房](#)

忠仁公

美濃公（[美濃国](#)、近国・上国）

[藤原基経](#)

昭宣公

越前公（[越前国](#)、中国・大国）

[藤原忠平](#)

貞信公

信濃公（[信濃国](#)、中国・上国）

[藤原実頼](#)

清慎公

尾張公（[尾張国](#)、近国・上国）

[藤原伊尹](#)

謙徳公

三河公 ([三河国](#)、近国・上国)

[藤原兼通](#)

忠義公

遠江公 ([遠江国](#)、中国・上国)

[藤原頼忠](#)

廉義公

駿河公 ([駿河国](#)、中国・上国)

[藤原為光](#)

桓徳公

相模公 ([相模国](#)、遠国・上国)

[藤原公季](#)

仁義公

甲斐公 ([甲斐国](#)、中国・上国)

https://biwako-genryu.shiga.jp/?page_id=617

天平9年（737）天然痘が国内に流行し、藤原氏の四家もあいついで疫病のために倒れた。そこで次期政権を担当したのが、光明子の異父兄にあたる橘諸兄である。諸兄は、唐から帰朝したばかりの僧玄昉・吉備真備と結んで政権を獲得した。これに対し、彼等の専権ぶりを非難していた藤原広嗣は、天平12年9月、九州で反乱を起した。乱は2ヶ月で鎮圧されたが、聖武天皇はこの時、都に内乱を誘発することを恐れ、平城京を離れて伊勢・美濃・近江に行幸する。その間、恭仁京（京都府）、紫香楽宮（滋賀県）、難波宮（大阪府）と遷都が続いたため、政情の混迷を深め、橘諸兄はしだいに仲麻呂の勢力に押されるところとなった。

仲麻呂は、叔母にあたる光明皇后の信任を得て、政界に進出し勢力を伸ばしていったのである。天平勝宝元年（749）聖武天皇が退位し、孝謙天皇（女帝）が即位すると、仲麻呂は、左大臣の諸兄・右大臣の豊成をしのぐ勢いとなり、代って政治の実権は、光明皇太后と仲麻呂が握ることになり、仲麻呂体制は確立された。

天平勝宝9年、橘諸兄が亡くなると、その子の奈良麻呂は、仲麻呂打倒を計画するが、事前に計画が洩れて失敗し、捕えられて獄死する。翌年仲麻呂は、淳仁天皇を擁立し、正一位、太師に昇進する。しかしそれも東の間、天平宝字4年（760）、仲麻呂政権を支えてきた光明皇太后が亡くなり、仲麻呂は後ろだてを失うことになった。

翌天平宝字5年、平城京の改修工事が行われた。孝謙上皇と淳仁天皇は、この間保良宮（大津市神領町付近）に移ることになった。

淡海公とは、天平宝字4年（760）、淳仁天皇によって藤原不比等に贈られた称号です。当然、藤原仲麻呂＝恵美押勝（藤原不比等の孫）の意思によって奉られた諡（おくりな）です。

僧道鏡の登場によって、孝謙上皇と淳仁天皇との間は悪化し、孝謙上皇・道鏡対淳仁天皇・仲麻呂との決定的な対立がはじまる。

仲麻呂は、淳仁天皇を謀議に誘い入れ、孝謙上皇と道鏡を追放する計画をひそかに進めた。しかし、謀反は事前に密告されたので遂に乱となった。緊急態勢をとった仲麻呂は、馱鈴・内印（天皇の印）と淳仁天皇を手中におさめようとするが、孝謙上皇方に先手を打たれ奪回することができず、太政官印だけを携帯して、平城京を離れ近江の国府に向かった。

当時、近江国は、淡海公（不比等）・武智麻呂・仲麻呂の三代にわたって固めた藤原氏の地盤であって、仲麻呂は、この時太師でありながら、近江守を兼務していた。